特別企画「ナショナルバイオリソース」

共催：文部科学省，日本分子生物学会，ナショナルバイオリソースプロジェクト推進委員会
後援：神戸市，財団法人先端医療振興財団

【パネル展示】
展 示 期 間：2004 年 12 月 8 日（水）〜12 月 11 日（土）
リソース説明：2004 年 12 月 9 日（木）　13：00〜15：00
会　　　　場：神戸国際会議場 3 階　レセプションホール

【シンポジウム】
日時：2004 年 12 月 9 日（木）　　15：15〜18：00
会場：E 会場（神戸国際会議場 4 階 401/402）

ライフサイエンス研究は、生物学はもとより薬学、医学、農学などさまざまな領域にわたって展開されているところですが、「リソースなくして研究はなし」と言われるように、多種多様な生物遺伝資源、すなわちバイオリソースの存在があってはじめて成り立つものです。しかしながら、バイオリソースの開発や維持は、わが国では長らく研究者や研究室個々の努力に依存してきた経緯がある上に、また一方でリソースの囲い込みや知的財産権に関する問題が近年頻繁に発生しており、その安定的かつ恒常的な供給体制の整備は、いまや我が国の科学技術の発展にとって極めて重要な課題となりつつあります。

このような状況を踏まえ、政府では「第２期科学技術基本計画」（平成１３年閣議決定）において、バイオリソースなど知的基盤の収集・管理・提供機能の強化を目標として掲げ、また文部科学省でも「ナショナルバイオリソースプロジェクト」を平成１４年度に立ち上げました。本プロジェクトは各種動植物、生物の遺伝子等を対象に、国が特に戦略的に重要なものについて、体系的に収集・保存・提供等を行う体制を整備することを目的としており、現在、実験動物１０種、実験植物８種、微生物３種その他培養細胞等計２４種のバイオリソースを扱っております。

本プロジェクトは本年度で事業開始３年目を迎え、順調に進捗しているところですが、事業をさらに継続・発展させていくことが求められております。このため文部科学省では、同プロジェクト推進委員会及び日本分子生物学会との共催で、「バイオリソースの現状と将来像」と題して、今般シンポジウムを開催することになりました。このシンポジウムでは、ポスターの展示も併せて実施し、その事業の内容について多くの方々に広くご理解をいただくとともに、今後の事業の推進に向けてご意見の交換を行うこととしております。

　これを機会に、一人でも多くの参加者の方々に本プロジェクトの意義を再認識していただき、その将来についてお考えいただければ幸いです。なおこの企画については、とりわけ日本分子生物学会にご理解とご賛同をいただき、同学会の年会開催にあわせてこのようなシンポジウムを開催する機会を得ましたことは、関係者一同の喜びとするものであることをここに申し添えます。

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課

バイオリソースパネル展示プログラム

展示期間　：2004年12月8日（水）～12月11日（土）神戸国際会議場3階レセプションホール
リソース説明：2004年12月9日（木）13：00～15：00　同会場

1．「実験動物（マウス)」の開発・収集・保存・提供事業
　　小幡 裕一（理化学研究所バイオリソースセンター）
2．マウスENUミュータジェネシスによるヒト疾患モデル動物の開発
　　小林 喜美男（理化学研究所ゲノム科学総合研究センター）
3．CARDマウス胚・精子バンク
　　中潟 直己（熊本大学生命資源研究・支援センター）
4．NBRP-Ratにおけるラットフェノームプロジェクト(Rat phenome project in NBRP-Rat)
　　芹川 忠夫（京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設）
5．「ニホンザル・バイオリソースプロジェクト」の現況と将来像
　　泰羅 雅登[1]，宮地 まり[2]，鍵山 直子[2]，山根 到[3]，山本 葉子[2]，森近 洋輔[2]，藤山 秋佐夫[4]，小島 俊男[4]，榊 佳之[4]，伊佐 正[2]（[1]日本大学総合科学研究所，[2]自然科学研究機構生理学研究所，[3]東京都医学研究機構神経科学総合研究所，[4]理化学研究所ゲノム科学総合研究センター）
6. 大型類人猿情報ネットワーク（GAIN）の活動
　　吉川 泰弘，平井 百樹，松沢 哲郎，長谷川 寿一，落合 知美，赤見 理恵，倉島 治（東京大学大学院農学生命科学研究科）
7. アフリカツメガエル（トロピカリス）の研究基盤整備
　　矢尾板 芳郎[1]，浅島 誠[2]，平良 眞規[3]，上野 直人[4]，田代 康介[5]（[1]広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設，[2]東京大学大学院総合文化研究科，[3]東京大学大学院理学系研究科，[4]自然科学研究機構基礎生物学研究所，[5]九州大学大学院農学研究院）
8．ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」
　　岡本 仁[1]，政井 一郎[1]，吉原 良浩[1]，川上 浩一[2]，高田 慎治[3]，菊池 裕[4]，舟橋 淳一[5]，川原 敦雄[6]（[1]理化学研究所脳科学総合研究センター，[2]情報・システム研究機構国立遺伝学研究所個体遺伝研究系，[3]自然科学研究機構基礎生物学研究所，[4]名古屋大学大学院理学研究科，[5]東北大学大学院生命科学研究科，[6]京都大学大学院医学研究科）
9．ナショナルバイオリソースプロジェクト「メダカ」
　　若松 佑子[1]，石川 裕二[2]，酒泉 満[3]，工藤 明[4]，武田 洋幸[5]，近藤 寿人[6]，三谷 啓志[7]，柴田 直樹[8]（[1]名古屋大学生物機能開発利用研究センター，[2]放射線医学総合研究所放射線安全研究センター，[3]新潟大学理学部，[4]東京工業大学大学院生命理工学研究科，[5]東京大学大学院理学研究科，[6]SORST プロジェクト近藤研究チーム，[7]東京大学大学院新領域創成科学研究科，[8]信州大学理学部）

10．モデル昆虫カイコの利用促進－カイコ生物資源の魅力－

伴野 豊，山本 幸治，藤井 博，河口 豊，日下部 宜宏，清水 進（九州大学大学院農学研究院）

11．ショウジョウバエ　―ゲノムワイドリソースの確立と展望―

山本 雅敏[1]，上田 龍[2]，和多田 正義[3]，松田 宗男[4]（[1]京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター，[2]情報・システム研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究センター，[3]愛媛大学理学部，[4]杏林大学医学部）

12．ナショナルバイオリソースプロジェクト「線虫」

三谷 昌平，安藤 恵子（東京女子医科大学医学部）

13．生物研のバイオリソース：ジーンバンク＆DNA バンク＆リソースセンター

長村 吉晃、宮尾安藝雄、B.Antonio、佐々木卓治（農業生物資源研究所）

14．イネ遺伝資源の特色とポストゲノム素材

倉田 のり（情報・システム研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究センター）

15．カンキツ系植物（ミカン亜科植物）の遺伝資源

仁藤 伸昌[1]，片山 幸良[2]，松本 亮司[2]（[1]近畿大学生物理工学部，[2]佐賀大学農学部）

16．オオムギの多様性とバイオリソース

佐藤 和弘，武田 和義（岡山大学資源生物科学研究所）

17．ナショナルバイオリソースプロジェクト「コムギ」

荻原 保成[1]，川浦 香奈子[1]，持田 恵一[2],河原 太八[3]，安井 康夫[3]，笹隈 哲夫[4]，笹沼 恒男[4]，辻本 壽[5]，田中 裕之[5]，那須田 周平[3]，遠藤 隆[3]（[1]京都府立大学大学院農学研究科，[2]長浜バイオ大学バイオサイエンス学部，[3]京都大学大学院農学研究科，[4]横浜市立大学木原生物学研究所，[5]鳥取大学農学部）

18．シロイヌナズナ種子及び植物培養細胞・遺伝子リソース

安部 洋，井内 聖，小林 俊弘，小林 正智（理化学研究所バイオリソースセンター）

19．ナショナルバイオリソースプロジェクト「ミヤコグサ・ダイズ」

明石 良[1]，阿部 純[2]，青木 俊夫[3]，酒井 達也[4]，霍田 真一[1]，橋口 正嗣[1]，磯部 祥子[5]（[1]宮崎大学農学部生物環境科学科，[2]北海道大学大学院農学研究科，[3]日本大学生物資源科学部，[4]理化学研究所植物科学研究センター，[5]農業技術研究機構北海道農業研究センター）

20．ナショナルバイオリソースプロジェクト「アサガオ」

仁田坂 英二[1]，飯田 滋[2]，小野 道之[3]（[1]九州大学大学院理学研究院，[2]自然科学研究機構基礎生物学研究所，[3]筑波大学遺伝子実験センター）

21．ナショナルバイオリソースプロジェクト「広義キク属」

落合 利紀，谷口 美穂，小田島 善子，近藤 勝彦（広島大学大学院理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設）

22．藻類の収集・保存・提供－ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」

笠井 文絵[1]，川井 浩史[2]，井上 勲[3]，嶌田 智[4]，渡辺 真之[5]，横田 明[6]，河地 正伸[1]，渡辺 信[1]（[1]国立環境研究所生物圏環境研究領域，[2]神戸大学内海域環境教育研究センタ

一，[3]筑波大学生物科学系，[4]北海道大学先端科学技術共同研究センター，[5]国立科学博物館，[6]東京大学分子細胞生物学研究所，）

23. ナショナルバイオリソースプロジェクト「酵母」－研究者による研究者のためのリソースセンターを目指して

下田 親[1]，金子 嘉信[2]，中村 太郎[1]，多田 晶[2]，森田 雅代[1]，原島 俊[2]（[1]大阪市立大学大学院理学研究科，[2]大阪大学大学院工学研究科）

24. 病原微生物の収集・保存・提供事業と遺伝資源化に向けた取り組み

西村 和子[1]，江崎 孝行[2]，神原 廣二[3]，笹川 千尋[4]，菅原 秀明[5]，辨野 義己[6]，本田武司[7]，三上 襄[1]（[1]千葉大学真菌医学研究センター，[2]岐阜大学医学研究科，[3]長崎大学熱帯医学研究所，[4]東京大学医科学研究所，[5]情報・システム研究機構国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ 研究センター，[6]理化学研究所バイオリソースセンター，[7]大阪大学微生物病研究所）

25. ナショナルバイオリソースプロジェクト「大腸菌」

伊藤 敬子，麻生 文子，末永 由美子，西村 昭子（情報・システム研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究センター）

26. NITE における有用微生物バイオリソースの整備

藤田 信之，関川 智洋，中川 恭好，鈴木 健一朗（製品評価技術基盤機構バイオテクノロジー本部）

27. 動物及び微生物のDNA

横山 和尚（理化学研究所バイオリソースセンター）

28. ヒト ES 細胞

末盛 博文，角 智行，安近 健太郎，中辻 憲夫（京都大学再生医科学研究所附属幹細胞医学研究センター）

29. 厚生労働省研究資源バンク事業

水澤 博[1]，橋本 雄之[2]，松田 潤一郎[2]，竹内 昌[3]（[1]国立医薬品食品衛生研究所変異遺伝部細胞バンク，[2]国立感染症研究所，[3]HS研究資源バンク）

30. 「ヒト細胞」および「動物細胞」バンク事業

中村 幸夫（理化学研究所バイオリソースセンター）

31. ナショナルバイオリソースプロジェクト-情報整備プログラム-「人」「もの」「情報」のネットワーキング

山崎 由紀子[1]，菊池 俊一[2]，菅原 秀明[1]，伊藤 元己[3]（[1]情報・システム研究機構国立遺伝学研究所生物遺伝資源情報総合センター，[2]科学技術振興機構，[3]東京大学大学院総合文化研究科）

ナショナルバイオリソースプロジェクトシンポジウム
「我が国のバイオリソースの現状と将来展望」

日　時：平成１６年１２月９日（木）１５：１５～１８：００
場　所：神戸国際会議場４階　Ｅ会場（４０１・４０２）

【プログラム】

司　会：小幡　裕一（理化学研究所ﾊﾞｲｵﾘｿｰｽｾﾝﾀｰ）

15:15～15:20　文部科学省挨拶

15:20～15:40　基調講演
　井村　裕夫（京都大学名誉教授、（財）先端医療振興財団理事長）

15:40～15:50　ナショナルバイオリソースプロジェクトについて
　小原　雄治（情報・ｼｽﾃﾑ研究機構国立遺伝学研究所生物遺伝資源情報総合ｾﾝﾀｰ）

情報センター整備プログラム代表者による発表
15:50～16:05　生物遺伝資源情報ネットワーキングの実現に向けて
　山崎　由紀子（情報・ｼｽﾃﾑ研究機構国立遺伝学研究所生物遺伝資源情報総合ｾﾝﾀｰ）

16:05～16:15　質疑応答

16:15～16:25　休　　憩

司　会：小原　雄治（情報・ｼｽﾃﾑ研究機構国立遺伝学研究所生物遺伝資源情報総合ｾﾝﾀｰ）

中核的拠点整備プログラム代表者による発表
16:25～16:40　①ナショナルバイオリソースプロジェクトにおけるマウスリソースの整備状況
　小幡　裕一（理化学研究所ﾊﾞｲｵﾘｿｰｽｾﾝﾀｰ）

16:40～16:55　②ショウジョウバエ　－ゲノムワイドリソースの確立と展望
　山本　雅敏（京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源ｾﾝﾀｰ）

16:55～17:10　③ナショナルバイオリソースプロジェクト「ミヤコグサ・ダイズ」
　明石　良（宮崎大学農学部生物環境科学科）

17:10～17:25　④ナショナルバイオリソースプロジェクト中核拠点整備（微生物）：大腸菌
　西村　昭子（情報・ｼｽﾃﾑ研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究ｾﾝﾀｰ）

17:25～17:40　⑤「ヒト細胞」供給体制整備の意義と概要
　中村　幸夫（理化学研究所ﾊﾞｲｵﾘｿｰｽｾﾝﾀｰ）

17:40～17:50　　質疑応答

17:50～17:55　　総　　括

森脇　和郎（理化学研究所筑波研究所所長兼ﾊﾞｲｵﾘｿｰｽｾﾝﾀｰ長・ﾅｼｮﾅﾙﾊﾞｲｵﾘｿｰｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ推進委員会委員長）

17:55～18:00　　閉会の辞

森脇　和郎（理化学研究所筑波研究所所長兼ﾊﾞｲｵﾘｿｰｽｾﾝﾀｰ長・ﾅｼｮﾅﾙﾊﾞｲｵﾘｿｰｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ推進委員会委員長）